

信 風 節 季



第三代主宰 紗一先生が

こよなく愛した

風知風

玄関まえに

二鉢おいて

太郎 花子と名付けられ

行ってくるよ ただいまと

声を掛けていた

紫陽花咲き自来也の墓青すぎる

長谷川かな女

ゆで小豆匙の丸さに従へり

長谷川 秋子

呼気よりも吸気の強し柿若葉

星野 紗一

# 髪に薔薇

山本鬼之介

夢でかな女と令和を語る目借時  
三代の傘干す庭や夏近し  
「殿方用」の文字たのもしき麦の秋  
宣戦の深紅のばらを挿頭しけり  
元年の葉桜越しに二重橋  
緑さす待合茶屋の緋毛氈  
黒ビール乾し急先鋒の女A  
郭公や方程式がまだ解けず

# 季 春

西 山 貴美子

囀りのかたまつてくる屋形町  
金容の眉すんなりと暮の春  
水出しの滴一滴や春の芝  
金金に気取つてゐても蕨餅  
春炬燵寝腐れ髪をかき上げて  
赤べこの首伸びてくる春の雷  
春の闇バンドネオンが息を抜く

「なんでそんなにようホームラン打てるの？」と神戸の子供達。「口では言えないけれど、プレーを見て少しでも励みになってくれれば」とイチロー選手。阪神・淡路大震災復興チャリティードリームゲームで、日本は外国人選抜に負けはしたが、勝敗など問題ではなかった。「勝負に徹する」との王監督のいい笑顔が未だに心に焼きついている。野球人気質に感動した或る夏の一夜であった。

# 改元

茂木和子

ひと花を散らし全き葉ざくらに  
桐の花跡目嗣ぐ児の生まれけり  
快晴の令和元年子供の日  
庭中に起伏の波や立浪草  
立浪草照り降り傘を持ち歩く  
菘の粹立浪草の小紫  
茉莉花の坂下り行く坂の闇

今年は例年より寒暖の差が激しく開花から満開まで長く花見が出来た。そして時も平成から令和へと改元されて、日本中が祝福ムードに包まれた。今上陛下は海外留学の経験があり、皇后陛下は元外交官。日本の未来に明るい希望が持てそうである。その様な中で私達が花鳥諷詠を無心で出来るなんて……。その喜びをひしひしと感じている。

令和元年

# 水明賞

加藤草太郎  
梅澤佐江

令和元年

# 季音賞

藤澤喜久  
荒井俱子  
池田雅夫

山本鬼之介

選考結果

## ◆水明賞◆

令和元年の水明賞は、平成三十一年三月五日の水明賞選考委員会において選考し決定した。選考委員会では、平成三十年の水明集に優秀な作品が載った上位の作家を候補者として選び、候補者に対して各委員より述べられた意見を充分討議した結果、加藤草太郎並びに梅澤佐江の両名に授賞することを決定した。今年七月号より、季音「花」欄の作家として、更に精進され優秀な作品を発表されることを大いに期待する。

## ◆季音賞◆

令和元年の季音賞は、平成三十一年三月五日の季音賞選考委員会において選考し決定した。選考委員会では、平成三十年の季音「花」欄に優秀な作品が載った上位の作家を候補者として選び、候補者に対して各委員より述べられた意見を充分討議した結果、藤澤喜久、荒井俱子、池田雅夫の三名に授賞することを決定した。今年七月号より、季音「月」欄の作家として更に作品に磨きをかけ、後輩を指導してもらうことを望む。

令和元年

# かな女賞

大村節代

令和元年

# 新珠賞

青木鶴城  
野田静香  
越田栄子

## 山本鬼之介

## 選考結果

### ◆かな女賞◆

平成三十一年四月三十日開催の臨時常任幹事会において、主宰山本鬼之介より、大村節代に令和元年のかな女賞を授賞したい旨の意向を示し、一同の賛意を得て決定した。

受賞者・大村節代氏は、星野紗一、星野光二の二代に亘って編集の実務責任者としてその任を全うされ、現在も継続してもらっている。その真摯な努力と、併せて、永年水明誌上に発表の秀逸な俳句作品の内容を高く評価し、かな女賞の受賞者に相応しいと判断した。

### ◆新珠賞◆

令和元年の新珠賞は、平成三十一年三月二十九日の新珠賞選考委員会にて選考し決定した。選考委員会では、予選を通過した十二編の候補作品について、新珠賞推薦委員の推薦意見を参考に、各委員がそれぞれ充分に意見を述べ、協議を重ねた結果、青木鶴城、野田静香、越田栄子の三名に授賞することを決定した。この慶事を契機に、次の目標に邁進してもらいたい。

# 水明賞

## 加藤草太郎



〔略歴〕昭和十六年埼玉県生。  
平成二十三年三月水明入会。平成二十五年同人。  
第一例会、水明小川句会、水明熊谷句会、俳句の手ほどき、現代俳句協会会員。

### 受賞のことば

昔、運動会で賞を貰って以来、賞とは無縁であった私がこの歳で賞を戴けるとは夢にも思っておりませんでした。三月五日夜、主宰からのお電話で「水明賞」を戴けることを知りました。

この時は正直申しまして嬉しさの反面戸惑いもありました。それは私の句がこの賞を戴くに足る作品でないことを自分が一番知っていたからです。しかし一日、二日が経過するうちに茲は選考委員の先生方の私の句の評価を素直に受けるべきではないかと思うようになりました。

人は「ひとつの切っ掛け」で変わり得るものと信じてきた者として、変わるかも知れない自分を見て見たくありません。そんな切っ掛けを用意して頂きました選考委員の皆様ありがとうございます。

諸先生、そして、昨年身罷られた光二先生、句友の皆さま、これからも末永くお見守り下さい。

### ▼受賞対象句抄

息綱にこころ休ませ海女の笛  
山路ぬけしばし峠の若葉風  
親は子の片蔭となり浜の路  
キャンプの灯消えて星座のひと講座  
長き夜や久に緋く智恵子抄  
大北風に富士の浮き立つ峠路  
街に出る道は一本枯野原  
蔵街に収まりのよき焼芋屋  
柚子絞るをんなに念ふこと数多  
囀や天から地から九輪から



# 水明賞

梅澤 佐江



〈略歴〉昭和二十一年茨城県生。  
平成十七年水明入会。十九年同  
人。平成二十三年新珠賞。  
第五例会、若松句会、俳句の手  
ほどき、雛の会、ひまわり句会。

## 受賞のことば

三月五日の宵、主宰より「水明賞に決まりました。おめでとう。」とお電話を頂きました。一瞬戸惑いと喜びが込み上げ「有り難うございます。」と申し上げるのが精一杯でした。ここまでご指導賜りました鬼之介主宰、故光二前主宰、故紫黄先生、故明世先生、順子先生、諸先輩、句友の皆様、本当に有り難うございました。

俳句という妖精の様な一行詩は、私にとって時に微笑みながら自から歩み寄ってくれ、時には追いかけても逃げて振り返ってさえくれず、今も捉え難いものなのです。

このような私が伝統と榮譽ある水明賞を受賞してよいのだろうかとの思いが沸々と湧き上がって参りますが、「努力せよ」という厳しい励ましであると共に深く刻みました。「これこそが私の俳句」と言える日が来るまで努力致しますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## ▼受賞対象句抄

寒の水飲みて心の襖かな  
吾もまた遊子の芯となる過客  
永き日の孔雀は羽を持って余し  
薄墨の愁ひを秘めて飛花落花  
散り際は自刃のごとし緋の牡丹  
岐路に佇つ時はこの橋紅の花  
空蝉となりても力残す爪  
大夕焼わが終章も斯く有れと  
篠笛に更なる静寂月祀る  
星降る夜花ひひらぎの匂ひ濃し

# 季音賞

藤澤 喜久



〔略歴〕昭和八年三月山形県生。  
平成十八年水明入会。平成二十年同人。平成二十八年水明賞。第三例会、東京水明、鶴川山百合句会。

## 受賞のことば

聞き取れないまま、受話器を置き……。  
翌日、鬼之介主宰からのお便りでそれは「季音賞」受賞を知らせて下さる主宰からのお電話だったのです。跳んで走って消え入りたい。とはこのことです。壊れた耳はもういらない、鬼之介主宰ほんとうに失礼致しました。勿体無い受賞です。ありがとうございます。亡き光二先生、御指導を賜りましたお陰での受賞と厚く御礼申し上げます。この恩情は決して忘れません。それから「鶴川山百合句会」の松本孝太郎先生は、もと日本橋高島屋の同じ社員でもあり水明に誘って下さった大の恩人なのです。よかつたね、と云ってくれました。句友の皆様には計り知れない多くの学びと友情をいただき感謝の気持ち一杯です。ありがとうございます。最後になりましたが選考委員の皆様には心よりお礼を申し上げます。「平成」もあと僅か「令和」の始まりが水明の新しい第一歩となります事を念じてお礼を申し上げます。

## ▼受賞対象句抄

反射焔の見えて葦山かぎろひぬ  
麦青む脱皮の迷ひ少年期  
すれちがふ湯屋の匂ひや五月闇  
地に落つるまでの空白夏椿  
昼すだく虫の哀れや通過駅  
鬼蜻蜓風を嫌つて風を恋ふ  
北へ北へと義経伝説沢桔梗  
ボランテアの奇跡の指に秋津かな  
編みかけの冬帽未完の恋のまま  
日向ほこ右も左もほとけさま

# 季音賞 荒井 俱子



〔略歴〕昭和十七年東京生。  
平成十六年水明入会。二十年同  
人。二十五年新珠賞。二十八年  
水明賞。  
コクーンシテイカルチャー俳句  
教室、さざきサークル、あゆみ  
の会。

## 受賞のことば

そこはかと春の気配が感じられる三月五日主宰より「季音賞」受賞の連絡を頂きました。未熟な私がと思い賞の重さを感じております。

母の介護が終り少しほっとした時に水明に入会いたしました。三日坊主の私が長きにわたり俳句を続けられたのも主宰始め、先生方の御指導の賜物と感謝致しております。

又教室や句会では句友の皆様は学ぶ事も多く時には励まされ今を迎える事が出来ました。ありがとうございます。これからも先生方、句友の皆様御指導宜しくお願い致します。選考委員の先生方感謝致しております。

最後に十年間にわたりコクーンカルチャーで指導して下さいました前主宰に感謝の気持を伝えたいと思います。「ありがとうございます。御冥福を心よりお祈り致します。」

## ▼受賞対象句抄

己が殻破りたき日や登高す  
冬耕すいぐねが囲む屋敷畑  
武蔵野を染むる日の出や初雀  
薄氷をせりせりと行くピンヒール  
末黒野や書く事多き農日誌  
種袋音を信じて購へり  
熟麦や川巾鯺鮎ふるまはれ  
夏落葉魔女をのせたき竹箒  
髪洗ひ憑物落つる心地せり  
人攫ひ居るかも知れぬ霧の街

# 季音賞

池田 雅夫



〔略歴〕昭和二十七年新潟県生。  
平成十九年水明入会。二十一年  
同人。新珠賞。水明賞。埼玉文  
学賞。  
第三例会、りそな俳句会。

## 受賞のことば

この度、思いがけなく「季音賞」を受賞させて頂くことになりました。山本鬼之介主宰そして多くの先生、先輩のご指導の下、飽きることなく続けておりますが、なかなか上達せず歯痒い思いです。故星野光二前主宰の教えを念頭に置き、新たに山本鬼之介主宰にご指導いただける幸せを嬉しく思います。

「水明賞」のときに申しました「冒険に挑戦したい」気持ちには常に抱いておりますが、目に見える冒険を重ねたかと問われれば、答えに困惑いたします。強いて挙げるならば破調がその一つと考えます。そして大胆に、かつ精密にものごとを捉える目を養う必要があると感じます。

水明のすばらしい句友とともに精進してゆきたいと思いません。

誠に有難うございました。

## ▼受賞対象句抄

ふと目覚めふはりと一句冬の朝  
抱卵のぬくもりをもて初明り  
朝靄に香る二月の雨あがり  
鳥国の狭きを深く耕せり  
春昼の光路面にうづたかし  
せせらぎの音や光や五月来ぬ  
子燕の全身口となる叫び  
肅肅と溢れだしたる天の川  
眠れねば眠れぬままに夜半の秋  
錆色の前山背山冬に入る

## かな女賞

### 大村節代

受賞に思う

〔略歴〕昭和十四年埼玉県生。  
昭和六十三年水明入会。平成  
十七年水明賞。平成二十年季音  
賞。平成二十七年雪欄。  
第一例会、珊瑚の会、柿の木塾。  
現代俳句協会会員。

桜の開花前線で日本中が湧いていたある夜「かな女賞に決まった」と鬼之介主宰からお電話を頂いた。思いもかけない事なので「私がですか。ご辞退致しますムニヤムニヤ……」と申し上げると、主宰は「もう決まった事なので受けて下さいムニヤムニヤ……」と言われ、畏れ多くも頂く事になった。

振り返れば、威厳に満ちた紗一先生、お洒落番長の明世先生、万事に確りの久代先生、紫黄・春邑子・一雨先生そして光二前主宰。貴蒼子・可伊・はる子さん。みんな遠くへ逝かれてしまった。

しかし、近頃の水明は、新しい方が続々と増えて素晴らしい句を発表されている。皆様の片隅に私もあと少しの間お邪魔させて頂いて、俳句に学び、俳句で遊びたいと思う。主宰、順子先生、句友の皆様、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。



# 新珠賞 青木 鶴城



〔略歴〕昭和二十四年佐賀県生。  
平成二十九年水明入会。(第4  
回初めての俳句教室卒業)  
新樹の会、若松句会、たかな  
俳句会、現代俳句協会会員。

## 受賞のことば

新珠賞の受賞に当たり、「初めての俳句教室」以来ご指導を頂いた山本鬼之介主宰を始め、句会で研鑽を積ませて頂いた新樹の会、若松句会、たかな俳句会の皆様に心より感謝申し上げます。

さいたま市報で俳句教室の案内記事を見つけたのが俳句を始めるきっかけでしたが、始めてみると何と奥の深いものかと、毎月の水明の掲載句に圧倒されてしまいました。

豊富な深い発想や高い語彙力及び漢字の知識の豊かさに、私には到底追いつけない距離を感じ、早々に挫折を味わったものです。

そんな折に主宰から、若松句会、たかな俳句会を勧められ、季音他の同人の多くの句に接し合評を重ねることで少しずつ力を蓄えることが出来たのだと思います。

新珠賞の受賞者として、更なる精進を重ねると共に、普及推進委員としても「水明」の活性と発展に寄与して参る所存です。皆様のご指導とご鞭撻を願ひ致します。

## ▼受賞対象句

### 意気錚錚

早起きの活き活き体操  
返る清明や父の遺せし筆に墨  
風光り意気軒昂の七合目  
若き日の恋の一齣春の夢  
履初めの靴靈山の山開き  
優勝の子らの勇姿や雲の峰  
風入れの古筆読み解く眼かな  
褐色の肌の渴きや夏の果  
秋彼岸古稀の句を添へ筆の文  
半世紀ぶりにギターを天高し  
いつよりか涙腺ゆるみ秋深む  
枯蓮や輪廻の旅へ友の逝く  
元朝の山の端を陽の堂堂と  
会心の「はね」の形や初硯  
連れ立ちて大股散歩梅早し

# 新珠賞

野田 静香



〔略歴〕昭和二十四年山形県生。  
平成二十六年八月水明入会。  
三十年同人。  
たかな俳句会、皐月の会。

## 受賞のことば

この度の新珠賞の受賞にあたり、山本鬼之介主宰、選考委員の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

私はたかな俳句会と皐月の会でお世話になっております。山本鬼之介主宰をはじめ、皆様に俳句の面白さを教えていただきました。こんな風に表現できるのか、という句に出会った時の驚きに感動します。皆様の考えや想像力に接して、見方が広がり、心が豊かになります。私にとってこれが句会の魅力になっております。

又、水明の諸先輩の皆様に見守っていただき、深く感謝しております。山本鬼之介主宰の熱心なご指導に少しでも答えられるよう、精進して参ります。今後とも皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

## ▼受賞対象句

### スケッチ日和

春 浅 し 光 を 運 ぶ 波 頭  
さくら東風画帳も入れて旅靴  
鳥籠となりし大樹や春の星  
夕鴉 絵 筆 が 走 る 麦 の 秋  
庭園に白薔薇満ちて沖に船  
パレットに海の色置く雲の峰  
コスモスやミニSSLに陽も乗せて  
日日伸びて壁画のごとき蔦紅葉  
藤田描く裸婦の白さよ秋の風  
自画像の眼差しと合ふ秋灯下  
風花や英語飛び交ふ人力車  
坂道に影を編み込む枯木立  
舟小屋の家並しづまる雪催  
山里のまるきポストを深雪晴  
頬杖をつく車窓にも冬落暉

# 新珠賞

越田 栄子



〔略歴〕昭和三十二年埼玉県生。  
平成二十二年水明入会。二十七年同人。  
水明熊谷句会、野ばらの会、水明小川句会。

桜堤に桜が咲き始めた三月二十九日の夜、主宰より「新珠賞を受賞されました」とお電話を戴きました。信じられない出来事にしどろもどろにお礼を申し上げるのが精一杯でした。改めて主宰と選考委員の方々に御礼申し上げます。ありがとうございます。

思えば九年前、森千代子さんから俳句を勧められたのが俳句との出会いでした。

その後、熊谷句会で星野光二前主宰のご指導を戴き、すっかり俳句に魅了され、何より句友の皆様との交流が楽しみになりました。

現在は、野ばらの会で和葉先生より言葉と一字を大切にすることを学び、熊谷句会では、山中順子先生よりの射た添削に学び、小川句会では千代子さんを中心に自由に意見交換出来る場を持たせて戴いております。

この賞は、主宰はじめ諸先生方、各句会の句友の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。これを機に、尚一層精進して参りますのでこれからもよろしくお願い申し上げます。

## ▼受賞対象句

### 原風景

桑の実を食めば遙けき日の記憶  
山も田も川も緑の風ありぬ  
麦稈帽腰に手拭ぶら下げて  
終りなき鼯ごつこか草を引く  
桑の芽の綻ばしたる陽の光  
山里に命育む飼屋の灯  
桑食むや時雨の如き音のして  
上簇や天に透けたる身となりぬ  
ひたすらに生きた証を繭一つ  
幾万の輝く繭の積み上がる  
引く指に繭の躍るや糸車  
蚕蛾や明日はモスラになれるやも  
桑括る風に手の皺伸ばしけり  
繭玉を飾り床の間華やげり  
桑畑ありしところ葛の花



# 新 珠 賞

(結果報告)

予選通過作品

作品名

応募者名

日 々 好 日	季 を 聴 け ば	原 風 景	着 脹 れ	泣 き て 笑 ひ て 働 き て	意 気 錚 錚	ス ケ ッ チ 日 和	日 向 ぼ こ	追 憶	光 陰	双 六	茶 三 昧
新	宮 崎	越 田	川 島	杉 浦	青 木	野 田	加 藤	田 中	日 高	橋 本	白 田
( 到 着 順 )	曆 文	チ ア キ	典 虎	理 恵	鶴 城	静 香	で ん 治	章 嘉	徹	京 子	み ち

# 新 季 音 同 人 (昇欄者)

新季音「雪」欄

新季音「月」欄

新季音「花」欄

矢 島	松 井	野 平	梅 澤	加 藤	霜 中	川 崎	加 藤	井 関	池 田	荒 井	藤 澤	矢 作	服 部	五 明	石 井	網 野
	由 紀	美 紗	佐 江	草 太 郎	冬 至	道 子	む ら 子	礼 子	雅 夫	俱 子	喜 久	水 尾	み ど り	喜 昇	月 恵	

季音抄 鬼之介

いきいきと異人若人城ざくら  
桜満つ上座下座のなき円坐  
水底の光りを紡ぐ葦の角  
舗装路に落ちて影なき四月の雪  
若芝や蹴り満点の逆上がり  
暮の春粧目の細き女下駄  
惜春や友を忘れし友の顔  
竹の子の山に勃起の気配かな  
春夕ベギヤルソンの凭る黒扉  
春宵や橋のかたちに灯が灯る  
キリストの眠さうな顔風光る  
ほろ酔うてあれは夢千代花見酒  
花冷に託つ二人の影法師  
リバーシブルの衣を裏返し竹の秋  
待望の男の子誕生芝萌ゆる  
山桜「曾良はまだか」と芭蕉像  
浄瑠璃の果てて此の世の春の闇  
潮干狩拾うて帰るさざれ石

波多野寿子  
星野 和葉  
茂木 和子  
森 千代子  
山中 順子  
山中みどり  
小倉 倭子  
鳥羽 和風  
五明 昇  
矢作 水尾  
網野 月を  
森田 祥絵  
田中 千穂  
大場 順子  
森川 義子  
山田美佐尾  
井上 玲子  
井口 俊晴

次の原稿を募ります。随時発行  
所宛、ふるってお寄せください。  
なお掲載については、編集部にお  
任せねがいます。

▼一句鑑賞

「水明」内外の最近の佳句を気軽  
に鑑賞してください。要領は、

二百字詰原稿用紙一句一枚以内  
(句に雑誌名、句集名、刊行月  
を付す)

▼散歩道へ身辺トピック

読んで楽しい、ちかごろ身辺に起  
きた面白い話題、めずらしい経験  
などの情報をお寄せください。

要領は、

二百字詰原稿用紙一件一枚以内  
(題をつけて)

▼山紫水明へ随筆

テーマ：自由

枚数：二百字詰原稿用紙五枚半

以内

# 水 明 抄 鬼 之 介

キユーポラの失せたる街を春霞  
 遥拜の社を掠め玄鳥来  
 燕くる心の晴れぬ晴れの日に  
 瑞垣の彼方より利く丁字の香  
 松に巻く菰のささくれ春浅し  
 スマホから視線飛ばして帰雁かな  
 白魚や隣座敷の江戸端唄  
 沈丁花挿したる竹の一重切  
 ひとつ鳴りそれつきりなり春の雷  
 安達太良の智恵子の空は花曇  
 夕霞む北山をゆく尼法師  
 肩かすめ水の匂ひの朝燕  
 未だ指に木の芽の香りのこる朝  
 そこここに水音したる日永かな  
 羽根生ふか三月背なのむず痒き  
 馴れ初めを二人の孫に春の宵  
 長閑なり工事現場の外国語  
 パスポート振りて飛び立つ春の服

近藤 徹平  
 正木 萬蝶  
 青木 鶴城  
 原田 秀子  
 曲淵 徹雄  
 野田 静香  
 保坂 翔太  
 越田 栄子  
 渋谷きいち  
 大塚 茂子  
 中井 和子  
 梅澤 佐江  
 加藤草太郎  
 矢島 清  
 松井由紀子  
 新 暦文  
 日高 徹  
 飛永 鼓

句会名	日 時	会 場	指 導 者	幹 事
第一例会	第1日曜・午後1時	浦和コミセン (パルコ 10F)	山本鬼之介	茂木和子 境 延昭
第二例会	第1水曜・午後1時	本所ビッグシップ	山中みどり	太田絹映
第三例会	第1月曜・午後1時	新宿区大久保 ルノアル	山本鬼之介	五明昇 曲淵徹雄
第四例会	第1木曜・ 午後1時30分	浦和コミセン (パルコ 10F)	椎野美代子	境延昭 石井喜恵
第五例会	第3火曜・午後1時	水明発行所	山本鬼之介	吉澤純枝 山田美佐尾
関西例会	第3日曜・午後1時	守口市文化センター	大橋 勉 代	森本早苗
婦人句会	第3月曜・午後1時	水明発行所	山中 順子	西山貴美子
若松句会	第1土曜・午後1時	京橋区民館	山本鬼之介	菊池ひろこ

## 水明例会案内